

経済指標レポート 第212号

(社)関西経済連合会 経済・経営グループ(担当:壺井)

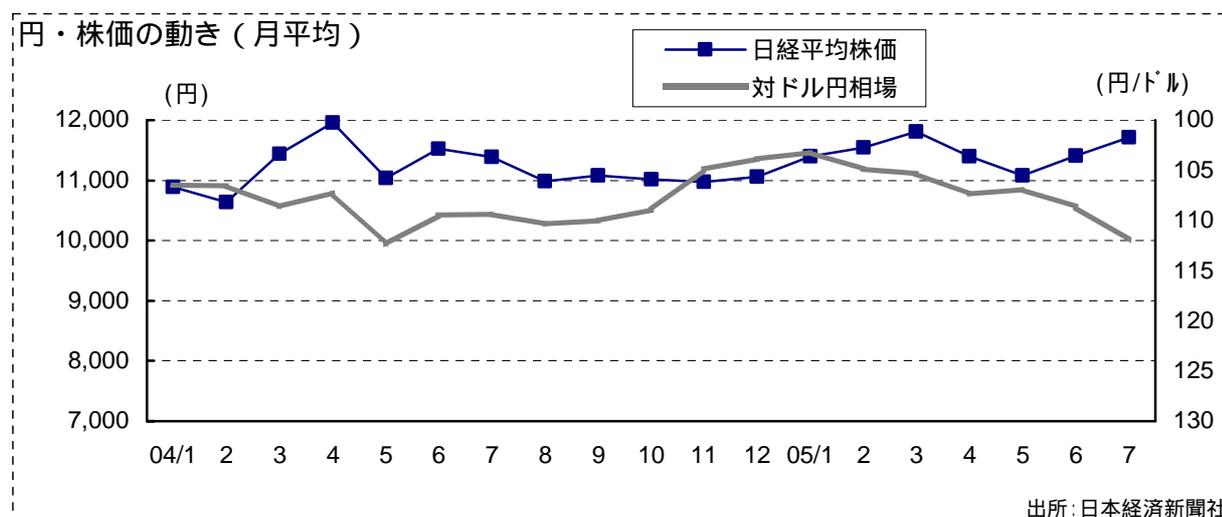
Tel : 06 - 6441 - 0102 Fax : 06 - 6441 - 0443

内閣府が発表した9月の月例経済報告では、日本経済の基調判断として、「景気は企業部門と家計部門がともに改善し、緩やかに回復している」との見方を示し、先月の基調判断を据え置いた。先行きについても、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込んでいる。しかし、今年度後半から来年度にかけての国内景気について、民間シンクタンクの中には「減速する」と予測しているところもある。その原因として、企業の設備投資が飽和し、調整に入る可能性や、海外経済の不透明さが指摘されている。

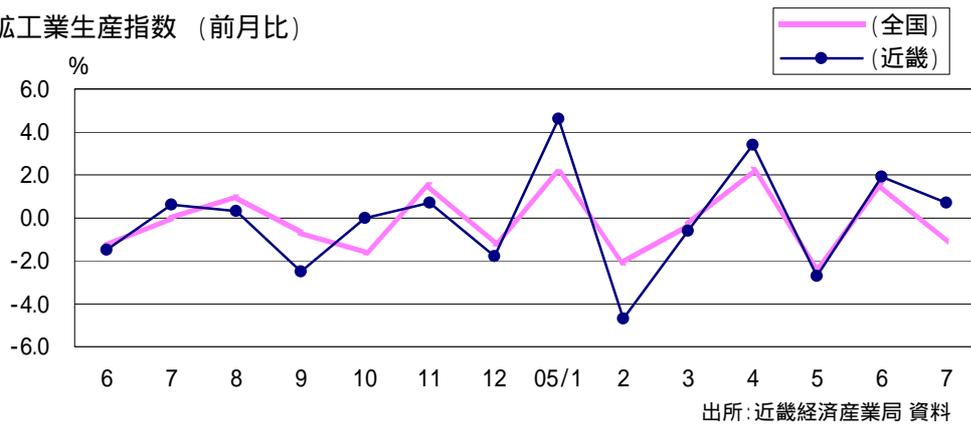
先月下旬から今月上旬にかけて、関経連と大阪商工会議所が共同で実施した「第19回経営・経済動向調査」でも、国内景気の先行きについて、10～12月期のBSI(「上昇」回答割合 - 「下降」回答割合)は7～9月期より若干上昇するものの、2006年1～3月期は足元の水準を下回る結果となり、足元と比較した今年度後半の国内景気の見通しについては、やや慎重な見方が広がっていることが明らかになった。また、今年度後半の自社業況の見通しについても、やや慎重な見方が広がっている結果が出ている。「踊り場」からの脱却を発表し、今月もその基調判断を据え置き、さらに景気回復の継続を見込んでいる政府・日銀の景気認識と、必ずしも良いとはいえない地域の実情とは差が見られた。

先の衆議院総選挙において、小泉自民党は圧倒的な勝利を収めた。この結果は、国民が現在の改革路線を支持していることの表れであるが、一方で、今後の景気の行方および地域の実情を十分に認識しながら、構造改革が促進されることを期待したい。

< 各指標の動き >

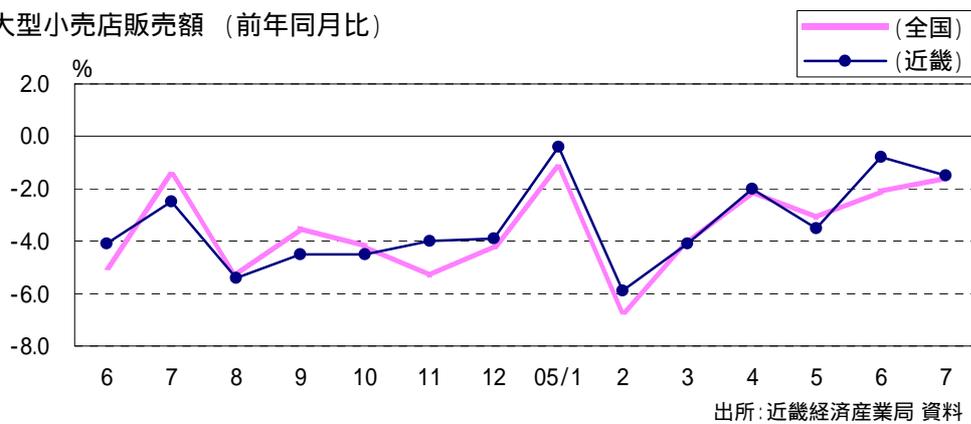


鉱工業生産指数（前月比）



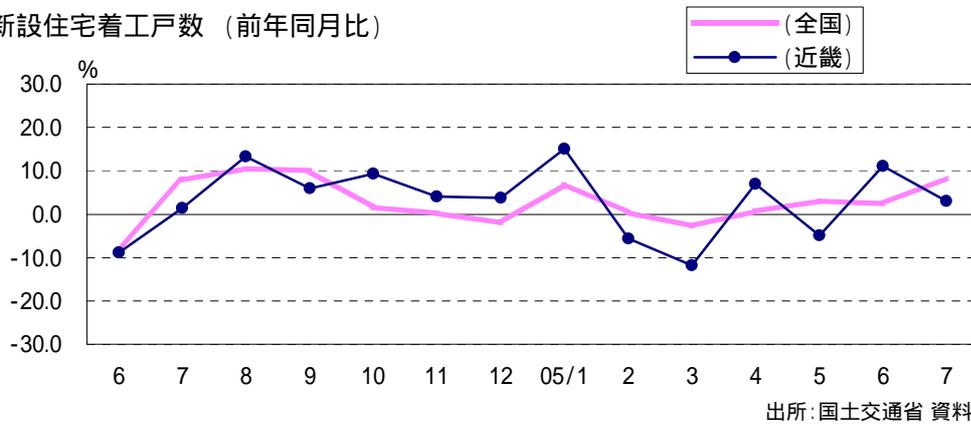
近畿は前月比 0.7% と 2 ヶ月連続の上昇。一般機械工業、化学工業(医薬品除く)、情報通信機械工業などが上昇に寄与。生産は概ね横ばいで推移している。

大型小売店販売額（前年同月比）



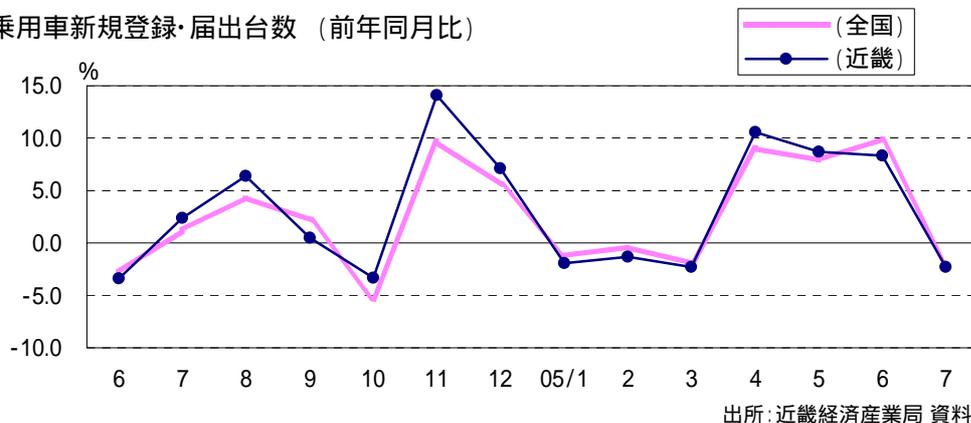
近畿は既存店ベースで前年同月比 1.5%減、17 か月連続のマイナス。百貨店が同 0.4%減で 2 ヶ月ぶり、スーパーが同 2.6%減で 21 ヶ月連続のマイナスとなっている。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



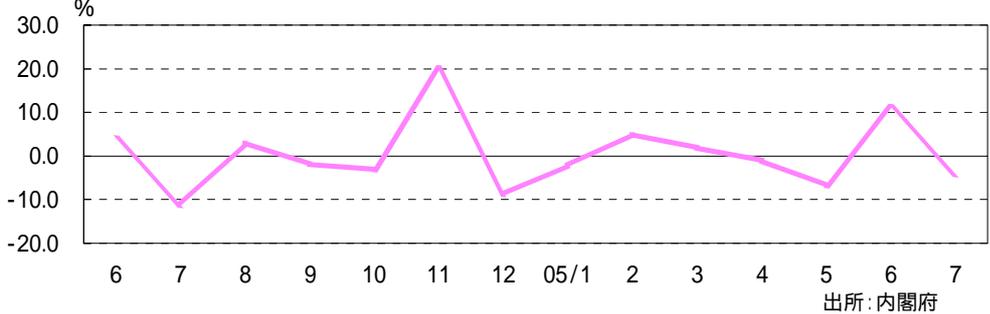
近畿は前年同月比 3.0%増と 2 ヶ月連続で前年を上回った。持家が 6 ヶ月連続、分譲住宅が 2 ヶ月ぶりに前年を下回ったものの、貸家が 4 ヶ月連続で前年を上回った。

乗用車新規登録・届出台数（前年同月比）



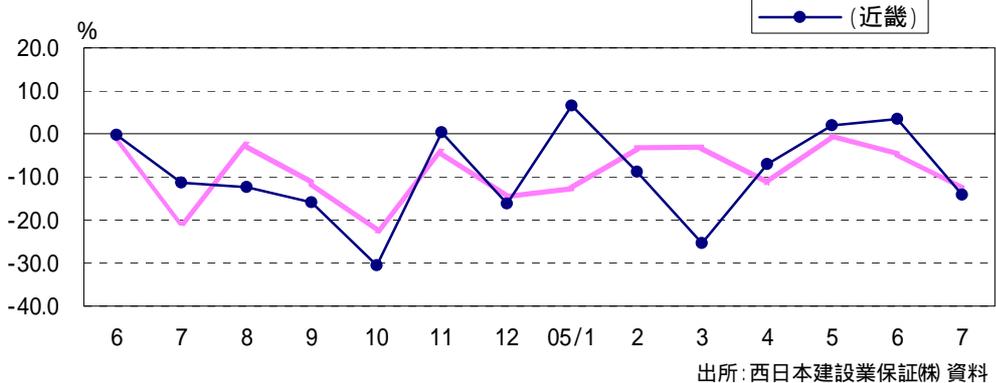
近畿は前年同月比 2.3%減と 4 ヶ月ぶりに前年を下回った。小型車が同 0.2%増、軽四車が同 6.3%増で前年を上回ったものの、普通車が同 13.1%減で 4 ヶ月ぶりに前年を下回った。

機械受注：民需除く船舶、電力（前月比）



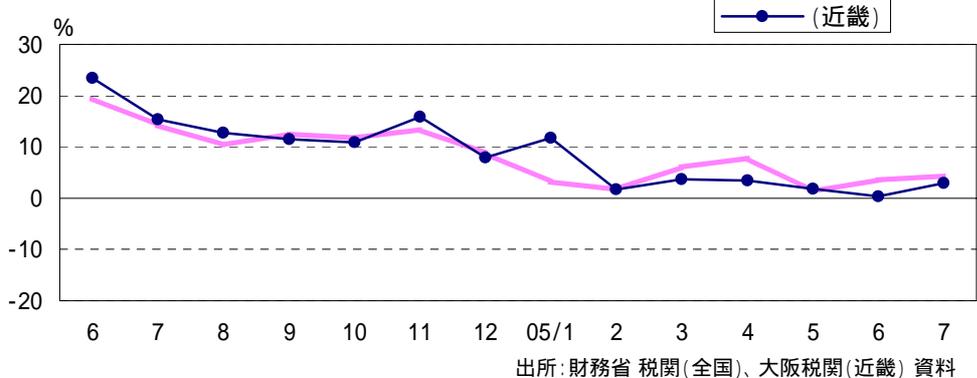
機械受注は前月比 4.3%減となった。業種別の受注は製造業が同 4.5%減、非製造業(船舶・電力を除く)は同 5.1%減となった。

公共工事請負金額（前年同月比）



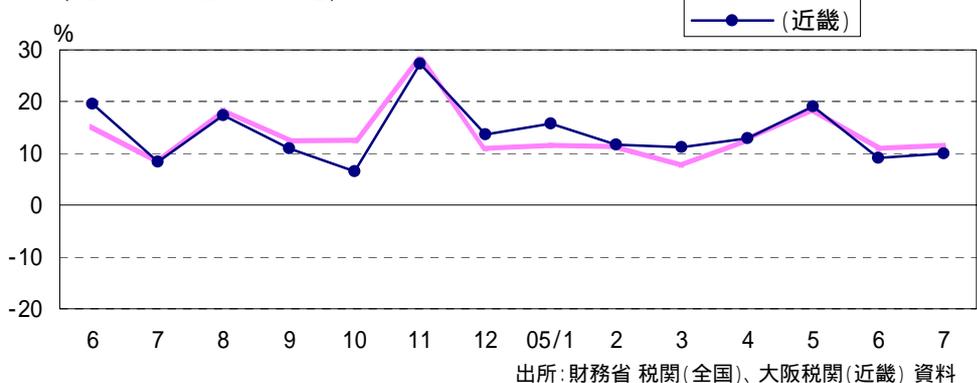
近畿は前年同月比 14.2%減。発注者別では、国で 2 桁増、府県で増加となったが、前年度大型工事の反動により、その他公共的団体で半減、市町村で 2 桁減、公共事業団等で減少となった。

輸出（円ベース、前年同月比）



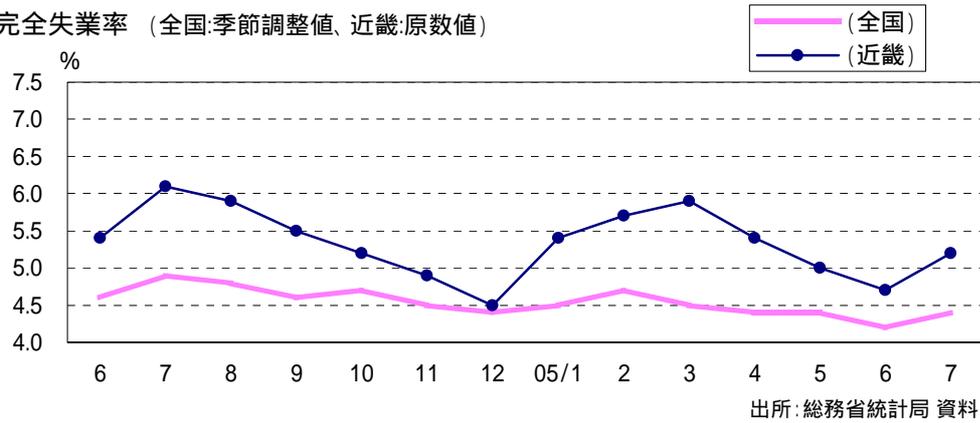
近畿は前年比 2.9%増。40 ヶ月連続のプラスとなり、5 ヶ月連続の 1 兆円超。7 月としては過去最高を記録した。自動車、原動機、有機化合物などが増加している。

輸入（円ベース、前年同月比）



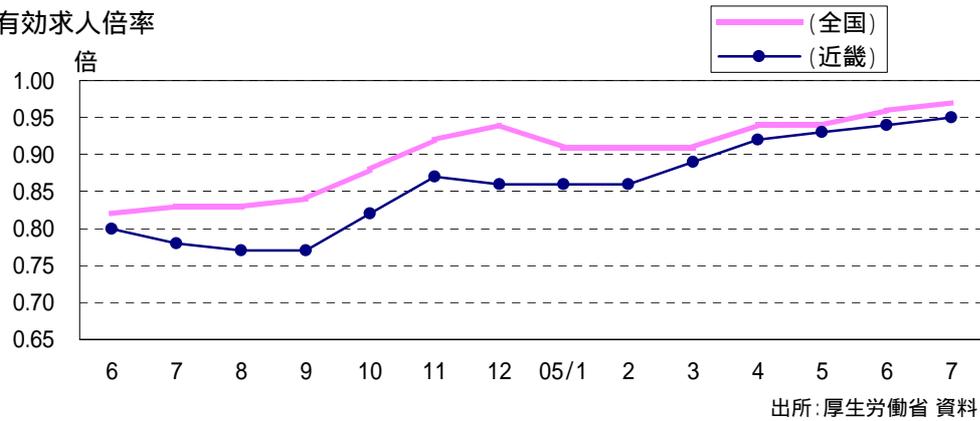
近畿は前年比 10.0%増、18 ヶ月連続のプラスとなった。衣類・同付属品が減少したものの、原原油、石炭、鉄鋼、科学光学機器、天然ガス・製造ガスなどが増加。

完全失業率 (全国:季節調整値、近畿:原数値)



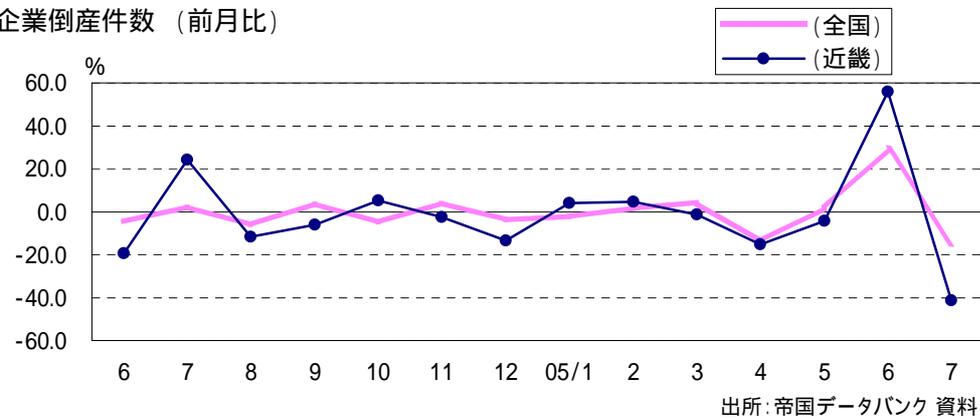
近畿は5.2%で、前年同月に比べ、12ヶ月連続で低下している。引き続き厳しさが見られるものの、緩やかに改善している。

有効求人倍率



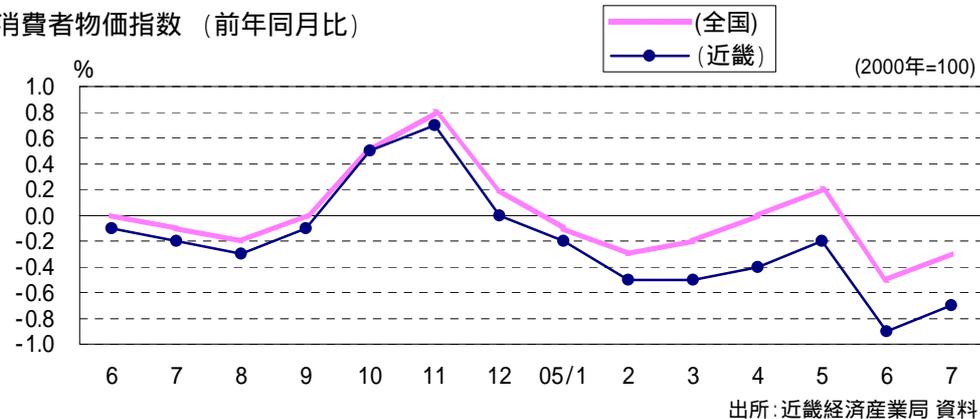
近畿は前月比 0.01ポイント上昇の 0.95倍で5ヶ月連続の上昇。大阪府では建設業、医療・福祉、教育・学習支援業、卸売・小売業等の新規求人数が増加した。

企業倒産件数 (前月比)



近畿は126件で前月比41.4%減。業種別では、前月比では全業種で減少。最も構成比の高い建設は、前月比では減少したものの、前年同月比では大幅に増加している。

消費者物価指数 (前年同月比)



近畿は96.7で前年同月比0.7%減。家具・家事用品、教育娯楽などの分野での下落が寄与しているものと思われる。前月比では0.0%と横ばいとなった。